

NEVER SAY NEVER

ROHTO

# HEALTH VALUES REPORT 2019

ロート製薬 ヘルスバリューレポート 2019



ロート製薬は2019年に創業120周年を迎えました。

今後も、創業以来、  
一貫して大切にしてきたコアバリューである健康(Health)を軸に、  
環境(Environment)や社会(Social)において  
価値の実現に長期視点で取り組んでいきます。

## 経営理念



豊かで幸せな生活を送るための心身の健康に貢献し続けることが  
当会社の最大の責務と捉え、  
その実現のために長期視点での経営と価値創出に努める。



当会社は、社会の公器としての使命を自覚し、  
当会社を取りまく全ての人たちと協働して社会課題を解決し、  
これにより得られた便益を共有する。

\* 公益性と長期的発展を第一義に経営していくため、2019年6月の株主総会において  
定款の一部変更を行い、株主の皆様の賛同を経て経営理念を第2条に明記しました。



**ROHTO**

## 7つの宣誓

- 1 私たちは、社会を支え、明日の世界を創るために仕事をしています。
- 2 その為に、いつも謙虚に学び、自らを磨く努力をし続ける決意を持っています。
- 3 励ましあい、協力し合える、社内外の仲間との信頼の絆をなにより大切にしています。
- 4 高い理想を掲げ、熱く語り、エネルギーに行動する文化を私たちは誇りに思います。
- 5 明るく、楽しく、和協努力。驚喜(オドロキ)の輪を世界中に拡げていきます。
- 6 まず人がいて、輝いてこそ企業が生きる。  
主役は人、一人ひとりが自らの意志と力で自立し、組織を動かして行きます。
- 7 私たちの存在を支えてくれる、すべてのもの(自然、社会、人々)への感謝と奉仕を固く誓います。

## コーポレート・アイデンティティ

### NEVER SAY NEVER

#### NEVER SAY NEVERとは？

世の中を健康にするために自分の進むべき道を見据え、  
どんな困難にもめげず常識の枠を超えて  
チャレンジし続けること。

## CONTENTS 目次

02	会長メッセージ	28	健康という視点から独自に作り出す 「環境(Environment)」に対する価値
04	わたしたちが考える社会的使命と実現すべき価値	30	今までも、これからも、 磨いていきたいロートの企業文化
06	社長メッセージ	38	ロートの健康経営
10	経営ビジョン2030	42	ESH推進を支えるコーポレートガバナンス
14	わたしたちが大切にする「ESH」	45	ESH推進を可能にする財務基盤
16	ロートのコアバリュー 「健康(Health)」に対する価値	47	ロートのプロフィット・シェア・ポリシー
24	健康という視点から独自に作り出す 「社会(Social)」に対する価値	48	データ集
		49	コーポレートデータ

#### 編集方針


当社を取り巻く全ての人々に、当社が大切にしている価値観や目指す大きなゴールにご理解、共感をいただくことを目的に、「ヘルスバリューレポート」を発行しました。健康(Health)、環境(Environment)、社会(Social)において当社が実現すべき価値についてご理解いただければ幸いです。

#### 注意事項

この資料に記載されている当社の現在の業績、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、実際の業績はさまざまな要因の変化により記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

## MESSAGE FROM THE CHAIRMAN

会長メッセージ

A portrait of Masahiko Yamada, the Chairman, smiling and wearing a dark blue suit, white shirt, and patterned tie. He is standing in front of a light-colored background with vertical lines, possibly a window or glass wall.

長寿を健康で、  
幸せに過ごすことのできる、  
持続可能な社会の実現に向けて、  
常識の枠を超えて  
挑戦していきます。

代表取締役会長  
山田 邦雄

今、社会の持続可能性(サステナビリティ)が問われています。気候変動の影響が実感できる場面が多くなってきているほか、日本では少子高齢化が年々深刻さを増しており、未来にどう希望を見出したら良いのか分りにくくなっています。こうした社会が抱える課題の数々は、それぞれが密接につながり合っています。たとえば、食の課題は、食料不足やフードロスの問題だけではなく、環境やエネルギー問題にも深く関連しており、どうサステナブルに循環させるか、という観点から統合し、解決策を考え出さなければなりません。

持続可能な社会づくりが必要な今だからこそ、近視眼的な思考に陥るのではなく、30~50年先の未来をしっかり見据えることが大切です。50年後であっても当社の若手社員の子世代が社会の中心で活躍していることを思えば、決して遠い未来ではありません。私たち自身の未来です。だからこそ、30~50年先の未来を見据え、長期視点で物事を考えることは非常に重要な経営戦略です。持続可能な未来のために、どういったゴールを目指すのかは、今現在の事業戦略そのものです。

健康や医療の世界では、今後30~50年で治療技術の大幅な進화가予測されるだけでなく、病気をいち早く見つける診断技術や、そもそも病気にかからないようにする予防技術の発展が進み、人類はますます長寿化していきます。そうした中、すでに世界的にも類を見ない長寿先進国である日本において、長寿を楽しみ、幸せだと思える社会づくりができれば、これから長寿化していく世界の国々にも大いに参考にしていただけます。長寿を健康で幸せに過ごすことのできる新たな社会システムの構築に向けて、当社は製薬を通じた治療への貢献のみならず、病気になる前の予防や診断、食を通じた健康づくりなど、健康を

幅広く捉えながら社会へ貢献していきます。同時に、働いている人が幸せになれるような会社や社会の仕組みづくりにも積極的に関与することで、当社自身が先進的な企業モデルを目指していきます。

新たな社会システムや先進的な企業モデルの構築に向けて、当社を取り巻くさまざまな人々やパートナーと大きなチームを組み、チームの一員として取り組んでいきます。会社や日本を内と外に分け隔てるのではなく、壁を取り払ってつながっていくオープンマインドが必要です。少子高齢化が進む日本には海外から若い人材に来てもらい、本当の意味でのダイバーシティを実現していきます。また、当社の社員も仕事以外に家族や地域といった社会との関係がそれぞれにあり、マルチに何役もこなしています。そうした社員を会社として囲い込むのではなく、すでに兼業解禁を他社に先駆けて実施しているように、むしろ社員一人ひとりがしっかり自立し、社会とのつながりを充実させることで、社会への貢献を果たしていきます。

当社としては、創業以来、一貫して大切にしてきたコアバリューである健康(Health)を軸に、環境(Environment)や社会(Social)において価値の実現に長期視点で取り組むことで、当社を取り巻く人々と協働しながら社会の課題解決に取り組んでいきます。当社を取り巻く全ての人々には、当社が大切にする価値観や目指す大きなゴールにご理解、共感をいただきながら、長期にわたってご支援いただければ幸いです。

2019年11月

代表取締役会長

山田 邦雄

# “長寿を「健康」で幸せに” 新しい社会の実現に 挑戦します。

少子高齢化、気候変動、エネルギー問題といった社会課題は、  
それぞれが互いに深く結びついており、まさに「難問」です。

そうした難問を突破するためには、

30～50年先の未来をしっかりと見据えることが大切です。

そして、その難問を解決するためのキーワードこそが、  
ロート製薬が最も重要と考える「健康(Health)」です。

ロート製薬は、世界的にも類を見ない長寿先進国の日本、

今後高齢化が進展するグローバルにおいて、

「健康」というコアバリューを積極的に創出し続けることで、

長寿を健康で幸せに過ごすことのできる

新たな社会の構築に挑戦していきます。

同時に、働いている人が幸せになれるような

会社や社会の仕組みづくりに積極的に関与することで、

新たな企業モデルを先進的に構築していきます。

# Social

社会や人々のためにできることはまだまだある。  
そう確信するロート製薬は、社会や人々をより健康に、  
より健全にするために、独自の貢献をしていきます。



# Health

創業以来、世界の人々の美と健康に貢献してきたロート製薬は、  
これからも常識の枠を超えて果敢に挑戦し、  
未来の健康を作っていきます。

## わたしたちが実現すべき価値



# Environment

健康長寿社会の実現に向けて、地球の健康も重要です。  
ロート製薬は今日も未来も、  
環境に想いを寄せながら独自の取り組みを推進していきます。



## MESSAGE FROM THE PRESIDENT

社長メッセージ

# 当社の優位性を活かした事業の 拡大と新しい分野への挑戦で、 2030年の経営ビジョン 「Connect for Well-being」を 実現していきます。

### 経営ビジョン2030の実現を目指して

これからも世界の人々の美と健康に貢献し、当社を取り巻く人々から存在を期待される企業であり続けたい——2019年2月に創業120周年を迎えたロート製薬は、その思いを明確にするため、2030年のありたい姿を示す経営ビジョン「Connect for Well-being」を策定しました。

Well-beingとは、人々が心身ともに健康で、社会的にも健康な状態を指し、幸せを感じながら毎日の生活を送ることができる状態のことです。幸福には心と身体が健康であるだけでなく、幸せを感じながら日々イキイキと過ごすことが大切であるという意味が込められています。当社は、世界の人々ができるだけ長い時間Well-beingを感じることができるよう、薬だけに頼らない製薬会社として、既存の医薬品やスキンケアのみならず幅広く事業をつなぐ

(Connect)ことで、健康長寿社会の実現に貢献していきます。

Connect for Well-beingという経営ビジョンの策定と併せて、今後10年間で当社が注力していく事業領域を明確にし、各領域で目指す姿として「事業領域ビジョン」をそれぞれ決めました。事業領域ビジョンは、OTC医薬品（一般用医薬品）、スキンケア、機能性食品、医療用眼科領域、再生医療、開発







代表取締役社長  
杉本 雅史

製造受託 (CDMO) の6つで構成されます。

たとえば、OTC医薬品では、主力とするカテゴリーのさらなる強化を図るほか、未保有のカテゴリーであっても提携やM&Aなどの選択肢を視野に入れながら、ラインアップを拡充していく戦略を進め、OTC医薬品で日本のリーディングカンパニーになることを目指します。また、病気にかかる手前の未病・予防分野で第3の柱を作るべく機能性食品を育てていく

ほか、ライフサイエンス領域として再生医療の確実な事業化を進めていきます。

当社は2030年の経営ビジョンと事業領域ビジョンを通じて、目指すべきゴールを明確に掲げることで、ゴールや価値観を共有できるビジネスパートナーと積極的に連携していきます。さまざまな形で連携や共創を模索することで、Connect for Well-beingを実現していきます。

## OTC医薬品や機能性食品の成長機会

医療財政が逼迫する中で、限られた資源である医療費をどの分野へ投入していくべきなのか、日本全体で真剣に考えなければならない時期に差しかかっています。増え続ける医療費の抑制に向けて、医療用医薬品からの「スイッチOTC」がますます加速すると考えられます。また、病院にかかる前に自分自身で健康を守る「セルフメディケーション」は、健康寿命の延伸に加えて、医療費削減の面でも重要なカギとなります。スイッチOTC、セルフメディケーションの重要性が今後さらに増すことで、健康寿命に対するOTC医薬品への期待が社会全体で高まり、市場は自ずと拡大していくと見ています。当社はすでに眼科薬や外皮用薬、胃腸薬、漢方薬などの充実したカテゴリーを持っていますが、そうした市場拡大を見据えて、新たな自社ブランドの構築や他社との連携などによって、OTC医薬品のラインアップを拡充していきます。こうして、時代の流れを先読みしながら、人々や健康長寿社会に貢献できる体制を整えていきます。

また、OTC医薬品の拡販と併せて、機能性食品などの食品事業にも力を入れていきます。薬や医療の

進歩だけに頼って健康寿命を伸ばしていくことは困難で、病気にかかる手前の未病・予防が重要になってきます。明確なエビデンスをもとに開発した機能性食品を提供し、食を通じて栄養をバランスよく取っていただくことで、人々の健康寿命を伸ばす一助していきます。

世界は今、日本が超高齢社会をどう乗り越えていくのか注目しています。中国をはじめとするアジア諸国は、日本から20年ほど遅れて高齢社会に突入すると予測されており、将来的には日本での経験をアジア諸国などの海外において積極的に展開していきます。

## ビジョン、戦略・戦術、組織体制をつなぐ

2030年の経営ビジョン、事業領域ビジョンの実現に向けては、戦略・戦術への落とし込みはもちろん、その戦略・戦術を着実に実行できるような組織体制を構築していきます。事業を広くつないでいく(Connect)ためにも組織が綿密に連携していることが大切で、組織同士、社員同士が互いに強い信頼関係で結ばれ、一体となってつながる(Connect)

ことが必要不可欠です。

当社は創業以来、社員を大切にする家族主義的な経営をしてきました。そうした経営姿勢を基本にしてきたことで、社員一人ひとりが会社に対してロイヤリティを持ち、会社や社会に役に立ちたいという社員を多数輩出してきました。加えて、当社には「こだわり」「挑戦」「人がやらないことをやる」といったDNAが脈々と流れ、誰もが無理だと思ふ難易度の高い課題へも「難しいからこそ、やる」と果敢に挑戦し、成功と失敗



を積み重ねてきました。

こうしたチャレンジ精神が旺盛な企業文化こそ、他社にはない当社ならではの強みであり、社員一人ひとりの自立した個の力と高い技術力になっています。今後はそうした個人力と技術力をベースにしながら、チーム力や部門間連携をよりいっそう強化していきます。チーム力や部門間連携を進める仕組みづくり、制度づくりにも着手し、真の信頼関係を築けるような一体感ある組織を作り上げていきます。強固な組織を根付かせながら、ビジョンを社員一人ひとりに腹落ちさせることこそが一番の要であり、社長としての私の役割です。ビジョンの共有によって目指すべきベクトルを合わせ、社員同士が膝を突き合わせて議論し合うことで、経営ビジョン、事業領域ビジョンを実現していきます。

## 「ESH」の価値の実現で 社会的な健康へ貢献

Connect for Well-beingを目指すことによって、人々が幸せを感じながら毎日を生活できるような社会的な健康への貢献を果たしていきます。折しも世界では、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成やESG経営が叫ばれ、社会価値への取り組みが強く求められています。美と健康に貢献し続ける当社らしいアプローチとして、当社のコアバリューである健康(Health)を軸にしながら、環境(Environment)や社会(Social)において価値実現を目指す「ESH」を力強く進めていきます。

社会(S)を健康にするために当社が担うべき役割として、地域・地方の再生や次世代の子どもたちへの支援があります。東京一極集中が加速する現状に対して地域や地方を豊かに再生していく、未来を担う子どもたちの健康や学びを応援していくことが、

社会全体の活性化に寄与すると確信しています。地域や地方に人々が定着しながら、子どもたちが健康やかに暮らせる明るい社会を築いていくことが、社会全体の健康や持続可能性につながると考えます。

環境(E)に対しては、化粧品でつめかえ用パウチを他社に先駆けて導入したように、プラスチックボトルをバイオプラスチックへ切り替えるなど、地球の健康を守るために必要な対策を着実に進めていきます。環境への配慮は、社会的にもお客様自身の意識としても確実に高まっており、当社独自の環境マークを開発し、商品デザインに順次導入していきます。

言うまでもなく、そうしたESHの推進には健全なガバナンスが不可欠です。2030年の経営ビジョン実現に向けて、取締役会の実効性を着実に高め、コーポレート機能のさらなる強化を図るほか、財務の健全性を維持していきます。企業としての健康、健全性にしっかり配慮しながらも、「ESH」という実現すべき価値を追い求め、社会的な健康へ積極的にコミットしていきます。

当社はこれからも常識の枠を超えて挑戦し、人々と社会の健康に貢献していきます。そして、価値観の共有による強い組織力とパートナーとの連携、共創によって、Connect for Well-beingという2030年の経営ビジョンを実現していきます。今後とも末永いご支援といっそうのご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年11月

代表取締役社長

杉本雅史

経営ビジョン2030

# Connect for Well-being

Well-beingとは身体も心もイキイキとし、  
さまざまなライフステージにおいて笑顔あふれる幸せな毎日を過ごすこと。

ロート製薬は、世界の人々が、Well-beingを実感できる時間が  
少しでも長くなるように

医薬品、スキンケアに加え、さまざまな事業で  
イノベーションを起こし幅広く「つなげていく」

それを実現するために、社内外の仲間同士を、組織と組織を  
しっかり「つなげていく」

そして、信頼の連鎖の上に人材を育成し、一体感のある組織を作り上げ

人々のさらなるWell-beingに「つなげていく」

—Connect for Well-being—



## 事業領域ビジョン2030

医薬品、化粧品、食品を中心に健康・未病・病気のさまざまなステージで、確かな製品・サービスを届けます。

### OTC医薬品（一般用医薬品）



日本におけるOTC医薬品のリーディングカンパニーを目指す

### 医療用眼科領域



アイケアリーディングカンパニーとして医療用眼科領域を開拓し、早期の収益化を実現する

### スキンケア



肌本来の機能に働きかけ、健やかさを再生するスキンケアを創造する

### 再生医療



革新的なライフサイエンス技術を事業化する

### 機能性食品



エビデンスと信用に基づく食品事業を第三の柱に育てる

### 開発製造受託（CDMO\*）



独自開発力を付加した開発製造受託(CDMO\*)へ進化させる

## ロートが取り組むドメイン

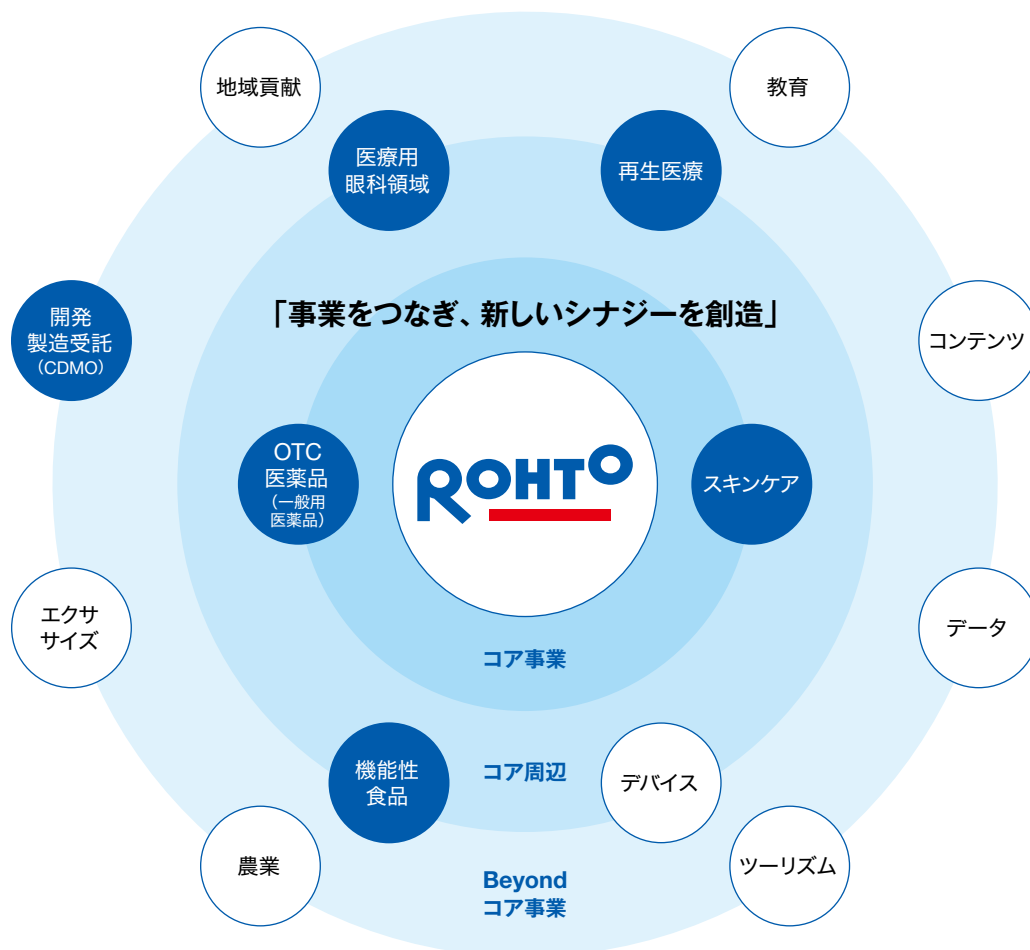


\* CDMO: Contract Development Manufacturing Organization

## 事業をつなぐ(Connect)とは?

# 業界の垣根を飛び越えながら、 事業をつなげていく(Connect)

当社は2030年に目指す経営ビジョンを達成するため、6事業領域でそれぞれビジョンを掲げ、積極的に展開していきます。また、業界の垣根を飛び越えながら、パートナーと連携、協働しながら、各事業をつないでいきます(Connect)。業界や領域を超えたつながりや領域の隙間にこそ成長機会があると当社は考えており、アメーバのように自在に事業や業界、領域をつなぐことで、新しいシナジーを創造していきます。



# Topics

## 国や文化の垣根を飛び越えながら、 各拠点の資源や知恵をつなぐ

当社は、世界110以上の国・地域にネットワークを構築し、世界の皆様の健康に資する商品やサービスを展開しています。

1988年にメンソレータム社を傘下にしてからは、日本における医薬品やスキンケア商品を作る技術やマーケティング手法を、アジアを中心に応用・展開させることにより、海外事業を伸長させてきました。これからもアフリカをはじめとする人口爆発が予見されるエリアにおいても同様の取り組みを進めていきます。

一方で、日本での成功例を頼りにするだけでなく、現地ニーズをしっかりと取り込み、地域での知見や現地ならではの発想をつなぎ合わせることで、ビジネスの拡大につなげています。たとえば、日本の主力スキンケアブランドである「肌ラボ」も、商品コンセプトは守りながら、現地のニーズを取り込んだ商品を開発し、世界の販売網に乗せてお客様に届けることで、グローバルブランドに成長しました。

ロートグループには多様な人材がいます。その人たちの知見を合わせ、これからも人々のニーズに応えていきます。



## 健康の源「食」を、 生産からお客様の毎日の食へつなぐ

薬の力は偉大ですが、本当の「健康」とは薬が必要でなくなること——当社は病気やストレスに負けない身体づくりの源である「食」に着目し、農業・食品分野をつなぎながら、「食」の可能性を探求しています。

石垣島の「やえやまファーム」では、農産と畜産をリンクさせ、循環型農業に挑戦しています。安心しておいしい作物・食品づくりのために、農産と畜産から食品加工、食肉加工、流通販売までをつなぐ6次産業化に取り組んでいます。同じく有機JAS認定を取得した奈良県宇陀市の「はじまり屋」では、環境にもやさしく、食からも健康に貢献できる取り組みを進めています。

2013年4月にオープンした当社直営のレストラン「旬穀旬菜」では、この「やえやまファーム」や「はじまり屋」で採れた作物や食品を使って、おいしさはもちろん、季節や体質に応じた悩みに合わせたメニューを提案し、「食」から毎日の元気をつないでいます。



# 「健康」で「つなぐ (Connect)」 長寿社会を実現する。

ロート製薬のコアバリューである「健康 (Health)」は、  
社会課題にしっかり向き合い、  
未来の社会システムを構築するためのキーワードです。

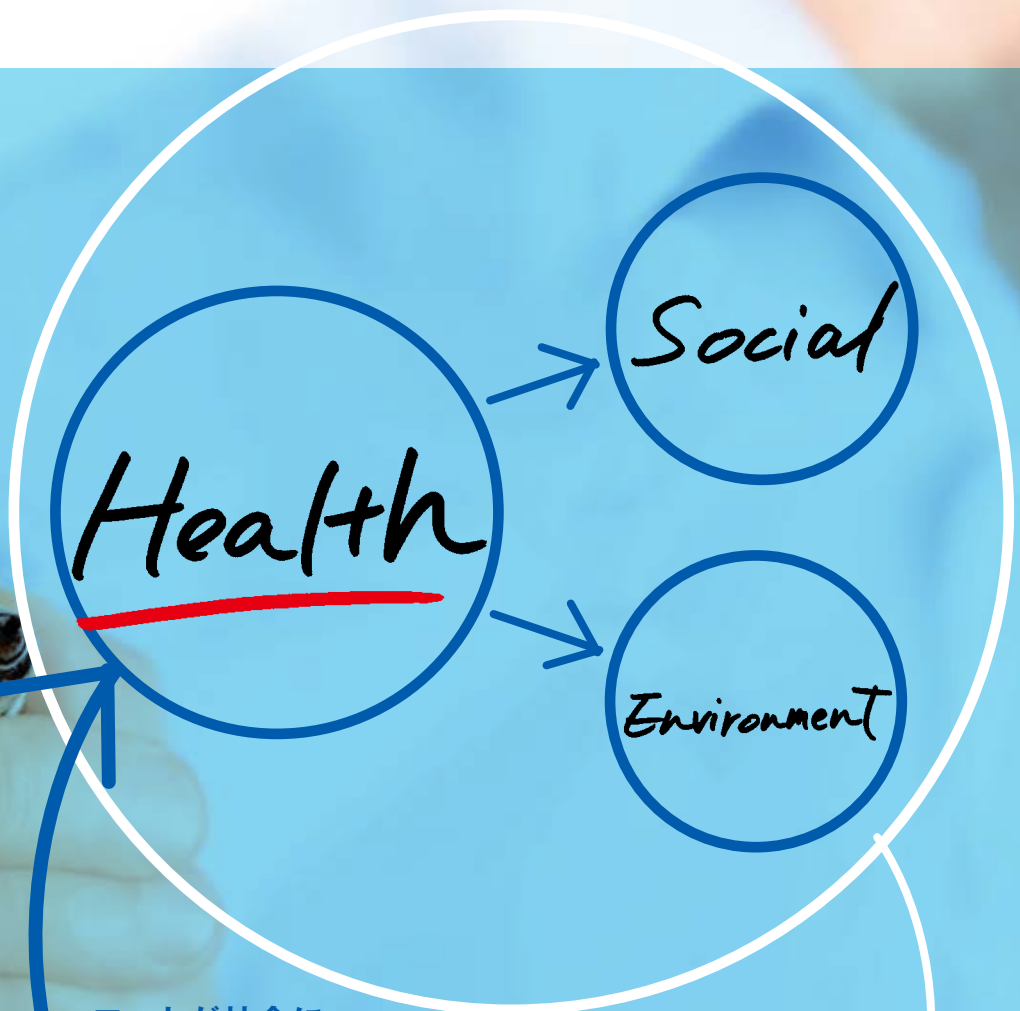
ロート製薬は商品やサービスを通じて  
広く社会へ「健康」を届けるとともに、  
健康という視点から「社会 (Social)」や「環境 (Environment)」への  
価値をそれぞれ独自に作り出していきます。

こうして、ロート製薬と社会を「健康」で「つなぐ (connect)」とともに、  
取り巻く全ての人々と連携し、  
協働していく「ESH」を推進することによって、  
長寿を健康で幸せに過ごすことのできる社会を実現していきます。

## ロートにとっての「ESH」とは？

ロート製薬が創業以来、一貫して大切にしてきたコアバリューである  
「健康 (H)」に対する価値、健康という視点から独自に作り出す「社会 (S)」、  
「環境 (E)」に対する価値のことで、その持続的な価値創出のために、  
長期視点で取り組みます。



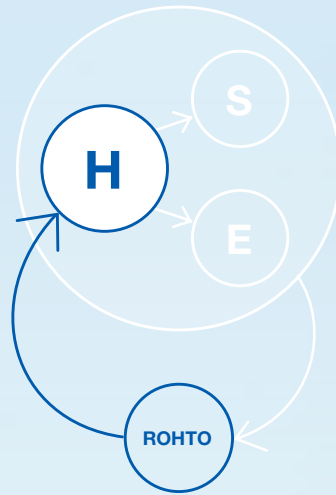


ロートが社会に「健康」を届ける



創出した価値により、ロート自身を進化させる

## ロートのコアバリュー「健康 (Health)」に対する価値



# Health

創業以来、世界の人々の美と健康に貢献してきたロート製薬は、  
これからも常識の枠を超えて果敢に挑戦し、  
未来の健康を作っていきます。



# 世界中に美と健康を届ける

「健康」は、誰もが願うことであり、幸せの源となるものです。私たちが考える「健康」とは、病気にならないというだけではありません。一人ひとりが心身ともに健康であることで、家族が健康になり、社会へと健康が広がっていく。心身ともに健康であるだけでなく、社会に貢献できること、それぞれが真の「健康」であると考えています。

当社は創業以来、胃腸薬や目薬、メンソレータムといった外皮用薬などの商品開発を行ってきたほか、近年では「Obagi(オバジ)」「肌ラボ」などのビューティー関連商品や、未来の健康のための食品事業、最先端の医療である再生医療事業へも挑戦し、さまざまな角度から美と健康に関する取り組みを行っています。

これからも、一人ひとりを、社会を、もっともっと健康にしていくために、「薬」だけに頼らない、常識を超えるようなユニークで新しい商品やサービスを生み出し、世界中に美と健康を届けていきます。

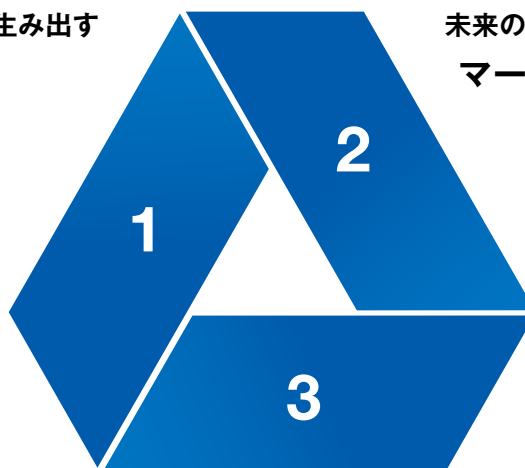
## 〔 未来の健康に貢献する力 〕

未来の健康を生み出す  
研究開発

→ P.18-19

未来の健康を提案する  
マーケティング・  
営業

→ P.20-21



未来の健康を支える  
生産・品質

→ P.22-23

[ 未来の健康に貢献する力 ]



# 未来の健康を生み出す 研究開発

120年積み重ねてきたノウハウとこだわりで、機能や効果はもちろんのこと、長く使い続けていただける使い心地を追求した研究開発を行っています。

## トップを走り続けるロートのアイケア

当社の目薬第一号は、1909年に発売した「ロート目薬」です。時代とともに変化する目の悩みやライフスタイルの変容に対応して進化し続け、アイケアカテゴリーを牽引してきました。これからも、時代とともに変化するお客様のニーズに合った商品をご提案していきます。

\* インテージSRI 目薬カテゴリー 2018年4月～2019年3月 累計販売金額シェア

目薬シェア\*  
**41.9%**  
2018年度

Vロートプレミアム  
国内最多の配合有効成分

**12**種類

一般用眼科用薬製造販売  
承認基準内  
最多有効成分配合

1909



1987



1987



1995



2008



2016



ロート目薬	ロートジー	アルガード	ロートCキューブ	ロートV11	Vロートプレミアム
流行していた眼病の治療をするために開発。1931年には、目薬瓶と点眼器を一体化した日本初の画期的な容器でトップブランドへ躍進。	目の覚めるような清涼感とオシャレなスクエアボトルで若者目薬の代名詞に。パソコンやゲームなどで目が疲れる若い世代の目薬市場をリード。	花粉症対策目薬として目のかゆみに対応し、新市場を開拓。2009年にはソフトコンタクトレンズ装用中に使用できる日本初の目薬を発売。	コンタクトユーザーの増加による、長時間装着による目の不快感に対応した、コンタクトライフの快適性をサポートするブランド。	抗炎症成分を3種類配合し、酷使する疲れ目で起きている炎症を抑えます。合計11種類の有効成分をバランスよく配合。	国内最多の12有効成分配合（一般用眼科用薬製造販売承認基準内最多有効成分配合）。蓄積した目の疲れに多角的にアプローチ。

## 機能性と使い心地にこだわったスキンケア

当社のスキンケアは「メンソレータム」から始まり、今では新規成分や製剤技術を活かした機能性化粧品の開発を行っています。当社は常により高い効果を引き出す製剤を研究し、新商品開発に挑んでいます。

### ビタミンC25%の安定溶解

25%のL-アスコルビン酸を水に溶かすための溶液温度は40℃以上と言われており、いったん溶けても冷却後に結晶が析出するという問題があります。この課題を解決するために、以下のアプローチを行いました。

- ・L-アスコルビン酸の可溶化を促進する成分の探索
- ・L-アスコルビン酸の結晶化を抑制する成分の探索

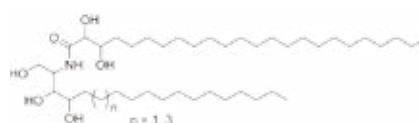
これらの結果、高濃度ビタミンCの溶解・安定化に成功しました。今後、ビタミンCの配合製剤安定化や効果などのさらなる研究を続けていきます。

ビタミンC  
25%

### 新セラミド\*1の化粧品への配合を実現化

セラミドは皮膚のうるおいを保ち、外部刺激から肌を守る大切な働きをしています。当社は、新セラミド\*1を世界で初めて化粧品へ配合することを可能にしたほか、セラミド混合物\*2に皮膚バリア機能を高める効果があることを確認しました。今後もセラミドの研究を進め、乾燥肌や敏感肌へ応用するなど商品開発を目指していきます。

\*1 ジヒドロキシリグノセロイルフィトスフィンゴシン  
\*2 ジヒドロキシリグノセロイルフィトスフィンゴシンとセラミド6IIの混合物

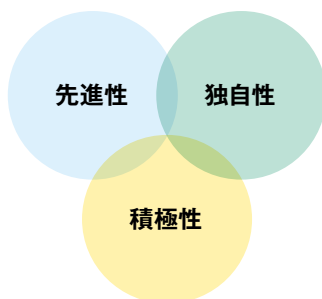


新セラミド：ジヒドロキシリグノセロイルフィトスフィンゴシンの構造

世界初  
新セラミド\*1  
配合実現化

## 知的財産権の獲得・活用

「医薬品業界他社牽制力ランキング2018」において、医薬品業界における他社牽制力が日本企業の中で第2位でした。これは、競合他社が出願特許を権利化する上で、阻害要因となる先行技術に関する特許を多数出願している先進的な企業であることを意味します。



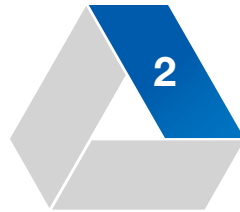
### 医薬品業界 他社牽制力ランキング2018

日本企業  
第2位

	企業名	引用された特許数
1	NOVARTIS(スイス)	304
2	F. HOFFMANN LA ROCHE(スイス)	276
3	PFIZER(米国)	170
4	MERCK SHARP & DOHME(米国)	167
5	武田薬品工業(日本)	166
6	GENENTECH(米国)	155
~~~~~		
13	GLAXO GROUP(イギリス)	99
<b>13</b>	<b>ロート製薬(日本)</b>	<b>99</b>
15	BRISTOL-MYERS SQUIBB(米国)	98
16	ELI LILLY(米国)	91
17	大正製薬(日本)	89
18	アステラス製薬(日本)	87

出所：(株)パテント・リザルト調べ。企業名の表記は、パテント・リザルトの発表に基づく。

[ 未来の健康に貢献する力 ]



# 未来の健康を提案する マーケティング・営業

長年愛され続けているワケがある。潜在ニーズを「“否・常識”が常識に」と発掘し、新規市場を切り開く。One to Oneコミュニケーションで今後もお客様の期待に応えます。

## ロングセラー&ヒット商品がトータルケアを実現

1964年の発売から55年間販売し続けている「V・ロート」。「新V・ロート」となった現在でもご愛用いただいています。また、2004年に発売した「肌ラボ」は12年連続で肌支持率No. 1\*(化粧水シリーズ販売個数)を達成しています。いち早く「つめかえ用パウチ」も開発するなど、ブランドトータルの売上高は累積1,450億円に達しています。こうしたロングセラー商品やヒット商品が、お客様のトータルケアを実現しています。



\*化粧水の合計販売個数に対する、肌ラボシリーズの割合。  
インテージSRI化粧水市場 2007年4月～2019年3月販売個数

### ロングセラー&ヒット商品

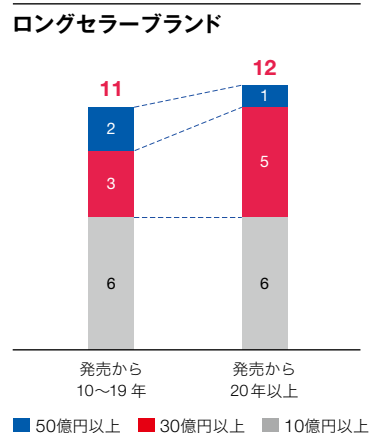
**V・ロート**  
55年間販売



1964年      2012年

**肌ラボ**  
12年連続No. 1





## 女性に寄り添い、応援しながら、新規市場を開拓

当社はセルフメディケーションや社会への貢献を目指して、妊娠検査薬や排卵日予測検査薬の商品開発を続けています。検査薬以外の商品でも、女性向け水虫薬「エクシブ」やデオドラントケアの研究や開発技術から生まれた制汗剤「リフレア」、女性のおいの変化に着目した「デオコ」などを発売。新たな市場を開拓できたのは、女性が自分のための商品だと思って手に取っていただけるよう、ブランドやパッケージデザイン、仕様にこだわり、女性カテゴリーを創出できた結果です。

検査薬のバイオニア  
**1980**年代より



妊娠検査薬「チェッカー」  
(1985年発売)



排卵日予測検査薬「ドゥーテスト LHa」  
(2016年発売、OTC医薬品)



エクシブ



リフレア



デオコ

## 「喜び」と「驚き」を共有する「よろこびっりの声」



実際に寄せられた  
「よろこびっりの声」

赤ちゃんは神様からの授かりものだと分かっているながらも妊活で焦っていた気持ちに寄り添ってくれたロート製薬に感謝です。本当にありがとうございました。  
(ご使用商品：ドゥーテスト LHa)

当社は1949年に日本初のアンケートはがきを商品に同封し、当時、2日間で256通のお客様からの声をいただきました。今では1年間に1,000件以上の声をいただいています。お客様の声に感謝し、励みにし、次の商品企画などのアイデアとして取り入れています。

よろこびっりの声  
**1,191**件  
2018年度

## いつでもどこでも身近に寄り添い、 トータルヘルスケアで貢献

OTC医薬品メーカーである当社にできることは、「セルフメディケーション」を推進することです。お客様がコンビニやスーパー、ドラッグストア、百貨店など、いつでもどこでも当社の商品に触れることができるよう、幅広い商品展開を行っています。

購入接点数(日本国内)  
**10**万店以上  
2018年度

### 購入接点でのアプローチ例



きめ細かな  
「買い場づくり」

小売店本部への提案から、店頭への情報提供、「買い場」のメンテナンスや販売サポートまでをトータルに展開



チャネル特性に合った  
「商品展開」

百貨店での直接カウンセリング販売に加え、通販事業にも注力するなど、お客様とのダイレクトな関係づくりを強化

[ 未来の健康に貢献する力 ]



# 未来の健康を支える 生産・品質

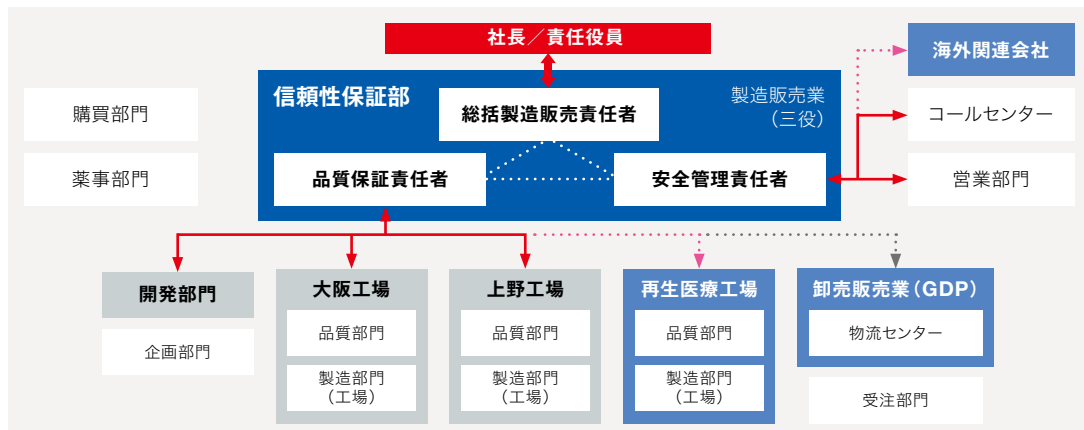
安全・安心の品質を担保した生産体制と、生産現場最前線にいる社員による  
自主提案(気づき提案)が、未来の健康を支えています。

## 全社品質システムで経営陣も品質保証にコミット

当社の商品を一つの製造販売業の組織で、三役(総括製造販売責任者、品質保証責任者、安全管理責任者)が連携して運営する体制を構築するとともに、製造部門や品質部門だけでなく、経営陣も含めた会社全体で品質・安全性にコミットする体制を構築しています。



### ロートの品質システム(全社一体型)





# 生産現場では常に新鮮な気持ちで改善に向き合う

生産現場では、QCD(Quality:品質、Cost:コスト、Delivery:納期)の改善を目指し、改善サイクルの維持・継続を目的として2005年に発足したのが「改鮮隊」です。「いつでも新鮮な気持ちで改善に向き合っていこう」との思いを込めて命名しました。QCDの改善につながることは「まずやってみる・変えてみる」を基本スタンスに、「気づき」に上がった問題の改善に一人ひとりが意志をもって取り組んでいます。

**ロートの改鮮活動の3本柱**

**気づき活動**  
問題を見つける目を養う

---

**5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)活動**  
問題が見つかりやすい環境を作る

---

**テーマ活動**  
問題解決の手法を学び、問題解決できる人を増やす



改鮮隊活動

## TOPICS

## 再生医療への挑戦

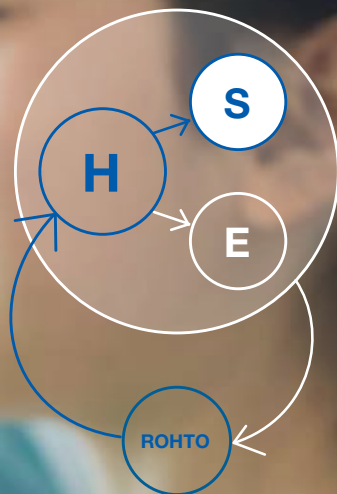
当社は、病気の治療だけでなく、将来的に予防医療にもつながる可能性のある再生医療に挑戦しています。2013年に再生医療研究企画部を設立。身体を構成する60兆個もの細胞を生み出すもとなっている「幹細胞」に着目し、研究機関や大学などとの共同研究を進めています。

当社が再生医療に取り組むことを可能にしたのは、化粧品や外皮用薬の研究開発で得た「細胞を扱う技術」と、目薬量産化のための「無菌製剤の製造技術」を活用することができたからです。一定品質の細胞を安定的に自動で作出す「自動培養装置」の開発に国内で初めて成功し、2016年に「特定細胞加工物製造許可」を取得。実現に向けて本格的な取り組みを進めています。

2017年には「肝硬変」に対する治験を新潟大学とともに日本で初めてスタート。2018年には塩野義製薬とのライセンス契約も締結しました。再生医療の研究過程から得られた知見は、アイケア、スキンケアなどの既存事業での商品開発にも活かしています。



健康という視点から独自に作り出す「社会(Social)」に対する価値



*Social*

社会や人々のためにできることはまだまだある。  
そう確信するロート製薬は、  
社会や人々をより健康に、  
より健全にするために、独自の貢献をしていきます。

カスタマーギャザリング  
参加者数  
のべ**8,500**人以上  
2006年～

## お客様と一緒に「目を大切にする」習慣を

ベトナムは当社がゼロから海外市場を開拓した最初の国として、1996年に事務所を設立しました。目薬を普段使う文化、習慣がない中で、目の大切さを訴える啓発活動として学校で無料眼科検診を実施し、疲れ目に目薬を点すという新習慣を広めています。2006年からは、毎週末お客様の声を直接聞く「カスタマーギャザリング」を継続的に実施し、新しい商品開発に活かしています。



# 日本だけでなく「世界の見る」をサポート

白内障手術者数  
**1,024人**  
2018年度

## ビジネスの枠を超えて

2016年から始まった「ソーシャルパートナー」では、活動に賛同してくださる取引先とともに、目薬の売上の一部をアジア・アフリカなどで眼科医療の支援活動をする団体に寄付し、白内障治療の支援活動をしています。



## NPO法人 タンザニア眼科支援チーム

眼科医が少なく、資金不足などから十分な治療が行えない状況にあるタンザニアで、2007年から眼科支援活動を開始。白内障手術の技術指導、不足している機器、薬剤などの提供と管理指導、日本での眼科研修などを通して、現地の眼科医療の発展を支援しています。



## 眼内レンズで「見る力」を一人でも多くの人に

1996年に設立された「PT.Rohto Laboratories Indonesia(ロート・インドネシア社)」は、アセアン地域で初めて、白内障手術用の眼内レンズ(IOL)の製造販売をスタートしました。地域の眼科医に眼内レンズの品質を理解していただく難しさなどの課題を乗り越え、今ではインドネシアを含む13カ国で販売しています。白内障による失明を減らすことができる眼内レンズは、社会貢献にもつながる大切な事業で、現在は、眼内レンズの無償提供を実施するなど、積極的に取り組んでいます。



## 遠隔地でも「見える喜び」を

眼科医療へのアクセスが困難なブラジルの先住民族コミュニティの状況を改善するため、眼科相談などができる「アマゾン白内障撲滅プロジェクト」が2016年にスタート。Ophthalmos Rohto(オファルモス・ロート社)から、白内障手術用製品を寄付したり、ボランティアスタッフとして参加しています。



眼科相談者数  
のべ**6,351人**  
2016年～

## 次世代の健康づくりと学びを応援

将来を担う子どもたちの健康と学びを応援したいという思いから、さまざまな活動を通じて支援しています。

薬育出張授業の開催数

21回

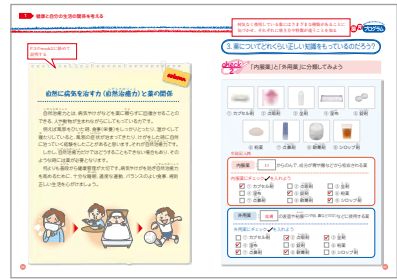
2014～2018年

### 薬育教育支援プログラム

製薬メーカーとして、薬育を指導する先生方や子どもたちの医薬品への知識を向上させ、健やかな生活を目指すため、医薬品の選び方や使い方を社員が学校に出向いてお伝えする「薬育出張授業」を2007年より実施しています。社員がボランティアとして行っているほか、現場の先生方からのニーズにお応えし、中学保健体育における「医薬品の正しい使用」単元でご活用いただける教員用指導教材を開発しています。



教員用ワークブック



### キッズニア甲子園

体験者数  
のべ333,281人  
2009～2018年

開発・研究というアクティビティを通じて、子どもたちに「自分で考え、工夫し、商品の価値を創造する」経験を提供し、サイエンスに興味を持ってもらいたいという思いから、学びと楽しさを合わせた社会体験を提供する「キッズニア甲子園」に「医薬研究所」パビリオンを出展しています。

\* ロート製薬は、キッズニア甲子園のオフィシャルスポンサーです。



### 村上恭和 セノビック 夢卓球教室 ／ロート製薬杯・全国ホープス卓球大会

子どもたちの健康な身体づくりを応援するため、村上恭和氏(前・卓球女子日本代表監督、現・日本生命保険女子卓球部総監督)と全国で卓球教室を開催するとともに、歴史ある卓球大会「ロート製薬杯・全国ホープス卓球大会」を特別協賛しています。

### サイエンスキャッスル

サイエンスキャッスルは中高生研究者のための学会です。自らが課題を見つけ、その解決に向けて活動できる人材の育成を目的とし、日本の科学技術の未来を支える中高生を支援しています。

## 日本の医学の発展に貢献

支援した研究者数

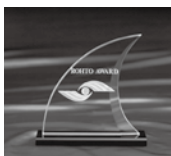
のべ179人

2019年10月現在

健康で豊かな社会を実現するため、女性や若手研究者などの優れた研究を支援しています。

### ROHTO AWARD

日本の眼科研究の発展・向上を目指して1995年に設立。日本の大学およびそれに準じる研究機関の若手眼科研究者を対象に、基礎研究と臨床研究の両方の業績を上げた研究者に贈られます。



### ロート女性健康科学研究賞

2009年に女性健康科学研究会として設立。現在はロート女性健康科学研究賞として、日本の産婦人科学研究の発展と向上に寄与することを目的に、妊娠・出産および女性の健康寿命などに関する研究に功績のあった研究者に贈られます。

### 皮膚医学研究基金(ロート製薬寄付)

皮膚医学の向上発展に寄与することを目的として2008年に設立。萌芽的研究および若手研究者を支援し、今後の皮膚医学の発展に貢献しています。

### 加齢皮膚医学研究基金：ロート賞

加齢皮膚医学に関する基礎的または臨床的調査・研究を広く奨励助成するため、2007年に設立。加齢皮膚研究会での賞は、本賞のみです。

## ロート社員自らが積極参加する社会貢献

社会に活かされる企業だからこそ、本当の意味での社会貢献をしたいという思いで、社員参加型の社会貢献に取り組んでいます。

奨学金寄付者数

811人

2019年10月現在

### みちのく未来基金

2011年3月に起きた東日本大震災で親を亡くした子どもたちの高校卒業後の進学支援のための奨学金基金で、当社など3社が発起企業となって設立しました。支援企業は年々増え、業界の垣根を越えた「輪」が広がっています。震災当時お腹の中にいた子どもが卒業するまでの約25年間にわたって支援していきます。

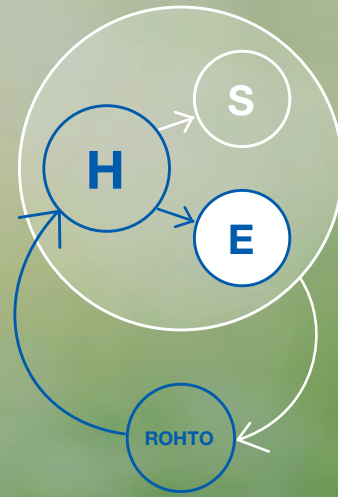


### かるがも基金

社員有志による積立基金と会社からの支援を合わせたものを原資とし、毎年、社会が必要とされる福祉や教育活動などの支援に役立てています。



健康という視点から独自に作り出す「環境 (Environment)」に対する価値



## Environment

健康長寿社会の実現に向けて、  
地球の健康も重要です。  
ロート製薬は今日も未来も、  
環境に想いを寄せながら独自の取り組みを推進していきます。

### ロートの 環境への 考え方

私たちが目指すこと、それは「健康寿命」への挑戦です。「健康」は、誰もが願うことであり、幸せの源となるものです。ロート製薬にとっての「健康」は、人のココロとカラダが健康であることはもちろん、社会や地球までが健康であることだと考えています。人が健康に生きていくためには、地球の健康が不可欠です。未来のために、持続可能な取り組みを推進していきます。人も地球も健康に。



## 社員起点で環境を考える

社員有志のプロジェクト「ARK\*2003」において、ハイブリッド車の導入、ISO14001の取得、本社社屋への太陽光発電パネルの設置を提案するなど、社員一人ひとりが考え、環境について取り組んできました。現在も営業車を中心にハイブリッド車を採用し、太陽光発電パネルで発電された電力は生産現場で有効活用されています。



\* ARK(アーク)：A(あしたの)R(ロートを)K(考える)  
「ARKプロジェクト」の詳細については、P.33も併せてご覧ください。

## 化粧水つめかえの先駆者、「肌ラボ」



今や当たり前となった化粧水の「つめかえ用パウチ」は、実は肌ラボが先駆者です。「無駄なものを徹底してそぎ落とす」という肌ラボの考え方から、省資源かつ経済的な「プラスチックボトル」「つめかえ用パウチ」を当社のスキンケアブランドで初めて採用しました。これからも、やさしさにこだわり商品の製造・開発に取り組んでいきます。

## ロート商品オリジナルの環境マーク

近年、環境への配慮は社会的にもお客様自身の意識としても高まっています。環境を考える上で、さらなる意識の高まりを期待して、当社独自の環境マーク「R・ecoマーク」を開発しました。R・ecoマークは商品企画のメンバーを中心に検討し、肌ラボをはじめ環境に対応している商品に順次導入していきます。



## 人と環境にやさしい工場の増設

三重県の上野テクノセンターでは、日本だけでなく世界に商品をお届けする、製造・品質管理・物流の拠点となっています。医薬品・化粧品を高品質・高効率で生産することを前提に、2005年以降「改鮮活動」も徹底しています。2021年に稼働予定の新工場ではさらに環境に配慮し、未来にもやさしい工場を目指しています。

### 新工場のこだわりポイント

- 再生可能エネルギーの活用や高効率・省エネ機器の導入により、エネルギー消費量を既存工場の20%削減を目指す
- 協働ロボットやネットワークカメラの導入により省人化したスマートファクトリー



1899年 大阪で信天堂山田安民薬房創業 胃腸薬「胃活」発売  
1909年 点眼薬「ロート目薬」発売  
1931年 点眼薬「ロート目薬」を新容器「滴下式両口点眼瓶」で発売し、目薬業界に大革命を起こした  
1949年 ロート製薬株式会社設立  
1954年 胃腸薬「シロン」発売  
1959年 大阪市生野区に現本社および工場が完成。同時に、布施工場他を移転  
1961年 大阪証券取引所市場第二部に上場  
1962年 東京証券取引所市場第二部に上場  
1964年 東京・大阪証券取引所市場第一部に指定  
1965年 山田輝郎社長が水泳日本再興のために私財を投じて「山田スイミングクラブ」を発足。後のミュンヘンオリンピックで金メダリストを輩出した  
1975年 メンソレータム社(米国)より商標専用使用権を取得  
皮膚治療薬「メンソレータム」および医薬部外品「メンソレータム薬用リップスティック」発売  
メンソレータムブランドを事業第三の柱にするべく外皮用剤分野へ進出  
1985年 妊娠検査薬「チェッカー」を薬局で発売  
母体保護の観点から妊娠検査薬市販の意義を粘り強く訴え続け、日本初薬局での発売となった  
1988年 メンソレータム社買収  
1991年 中国に現地法人「メンソレータム社・中国」を設立  
1997年 ベトナムに現地法人「ロート・メンソレータム・ベトナム社」を設立

# 今までも、これからも。 磨いていきたいロートの企業文化

当社の企業文化は、120年の歴史に裏打ちされたロート製薬ならではの強みであり、  
ロート製薬のコアバリュー「健康(Health)」価値の創出の源泉です。  
未来へつないでいくために、今後も企業文化を磨いていきます。

2001年 機能性化粧品「Obagi(オバジ)」発売  
機能性化粧品の草分けとなるビタミンCブームを巻き起こす  
2004年 「肌研(ハダラボ)」発売  
2011年 「震災復興支援室」を新設  
東日本大震災で親を亡くした子どもたちを支援するための奨学基金「公益財団法人みちのく未来基金」を設立  
2013年 食事業、再生医療事業へ進出  
「グランフロント大阪」内に「旬穀旬菜」オープン  
「再生医療研究企画部」を新設  
2016年 新CI「Never Say Never」制定  
2017年 6月10日「ロートの日」制定  
健康へのチャレンジを宣言する「健康宣言日」に  
2019年 「禁煙推進企業コンソーシアム」に参加  
企業の垣根を越えて喫煙率ゼロを目指す



[ ロートらしい企業文化 ]

自ら自立し、  
組織を動かす

→ P.32-33

NEVER SAY NEVER

「変化」に怯まない

柔軟さ

→ P.34-35

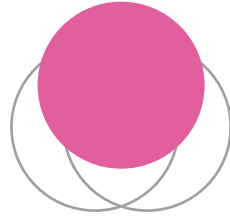
個の多様性が

生きる

→ P.36-37

「NEVER SAY NEVER」はロートに流れるDNAを表す言葉であり、これから私たちが挑む未来に向かう宣言でもあります。世の中を健康にするために私たちが進むべき道を見据え、どんな困難にもめげず常識の枠を超えてチャレンジし続けるとともに、今まで磨いてきたロートらしい企業文化を、これからも磨き続けていきます。

[ ロートらしい企業文化 ]



# 自ら自立し、 組織を動かす

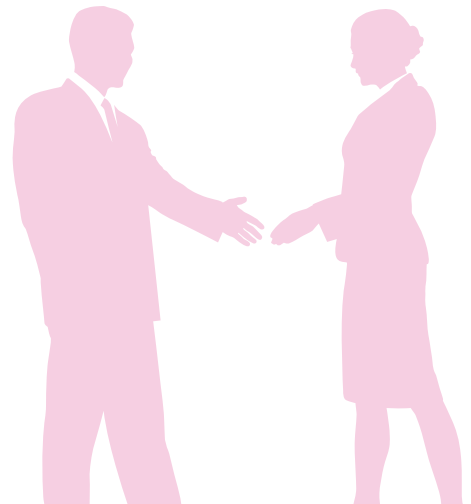
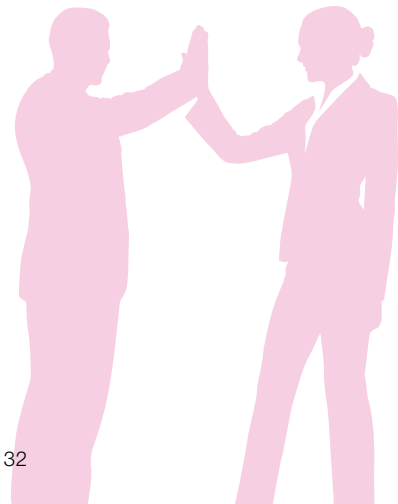
## ロートの「自ら手を挙げる」文化

当社は企業として、社会に貢献する、「自立した人」を輩出することも大きな役割であると考えています。「7つの宣誓」にも「まず人がいて、輝いてこそ企業が生きる。主役は人、一人ひとりが自らの意志と力で自立し、組織を動かして行きます」と掲げているように、自立した人づくりを推進し、一人ひとりが成長し続ける「プロの仕事人」になることを目的として「自ら手を挙げる」ことを基本にしています。昇格や異動、プロジェクトへの参加も本人の挙手からのスタートとなるため、自分の仕事へのやりがいにもつながっています。

自分の仕事・役割に  
誇りを持っている社員の割合

82%

2017年社内アンケート



## 社員自ら、未来のロートを提案

プロジェクト参加者数

のべ**267**人

2019年3月現在

ARKプロジェクト(2003年~) / あすつくプロジェクト(2018年~)

明日のロートを考えるプロジェクトとして、社員自らが自発的に立候補して参加する

「ARKプロジェクト」を2003年より実施しています。環境や社会貢献、人事、健康経営など、未来のロートをつくるための重要なテーマに社員自らが向き合い、ハイブリッドの社用車の導入や、薬育の実施、兼業を含む人事施策を提案し、実現に至っています。

・ARK(アーク):A(あしたの)R(ロート)をK(考える)

### あすつくプロジェクト2018

社員全員でロートの明日をつくる100の提案を考え、その中から3つのテーマで2018年にプロジェクト開始。インナーコミュニケーションを促進する施策として新しい社内メディアが誕生するなど、数々の施策が実現に向けて動いています。



### あすつくプロジェクト3大テーマ

- 情報の見える化と発信
- 働き方改革推進
- 教育・研修の提案

## 「部門」の枠を超える、「会社」の枠を超える

### 社内ダブルジョブの実践

就業時間の一部を部門の枠を超えて他部署でも活躍し、仕事の質の向上、個人の成長を後押しする制度です。

社内ダブルジョブ  
実践者数

のべ**70**人

2019年3月現在

### 社外チャレンジワークの挑戦

本業は大切にしながらも自身の時間を使い、社会に貢献したいという社員のための制度です。自立・自走する人を一人でも多く育てていきます。

社外チャレンジワーク  
実践者数

**84**人

2019年3月現在

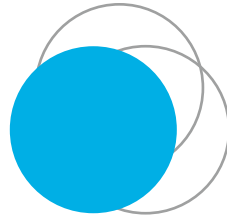
## 社員が真に自立するためには



人事総務部 副部長  
**山本 明子**

成長のために大切なことは、自分自身の可能性を一つに限定しないことです。それならば、今必要なのは複数の可能性を持つきっかけなのではないかと考え、社内ダブルジョブや社外チャレンジワークの制度を後押ししました。社内ダブルジョブ制度を活用して部署を兼務し、不在にする人が出ることで、本人はもちろんのこと、その周囲の人も成長するなどの報告も受けており、いろいろと面白い効果が出てきています。こうした多様な働き方がもっと浸透していけば、全員の働き方が変わるとし、そうやって初めて、本当の意味での社員の自立が実現するのだと思います。

[ ロートらしい企業文化 ]

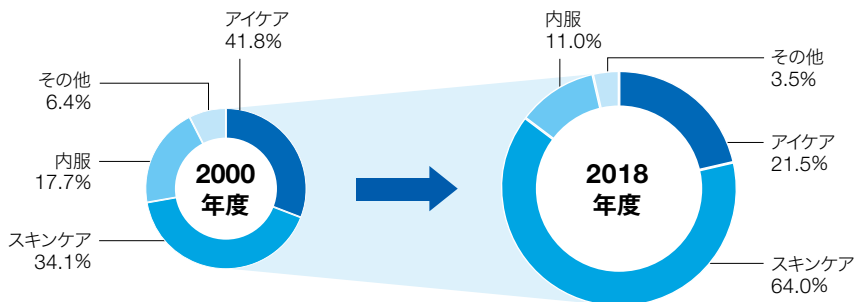


# 「変化」に怯まない 柔軟さ

## 常識の枠にとらわれず、 変化を遂げてきたロート

流行り病の治療薬として胃薬・目薬から始まった当社ですが、他社がまだ価値を上げていない場所を開拓し、成長を続けてきました。「人がやらないことをやる」「難しいからこそ、やる」と挑戦し、変化を積み重ねてきたからこそ、その柔軟さが「強み」につながっていると考えています。

### カテゴリ別売上高の変化(連結)



2001年に機能性化粧品「Obagi(オバジ)」を発売したことをきっかけに、スキンケア事業が本格的に拡大した結果、事業構成が大きく変化しました。

## 一人ひとりをプロとして認め合う風土づくり

一人ひとりをプロとして認め合う風土づくりは、1994年から本格的に始まりました。役職や社歴に関係なくコミュニケーションが取りやすいように、オフィスの間仕切りを取り払い、お互いを「さん」付けで呼び合うようになりました。2005年からは組織の風通しをさらに良くするため、ニックネームとして「ロートネーム」を考案して社員証にも記載し、役職や社歴に関係なくロートネームで呼び合っています。

### 社内オープンイノベーションから商品化

2018年に誕生した「メンソレータムハンドベール プレミアムノースモイスト」は、研究開発部門と営業部門が交わることで、商品化された商品です。開発シーズを展示する「オープンラボ」を研究開発部門が企画し、営業担当者とのディスカッションが実現。現場だからこそ分かる地域のニーズとマッチし、北海道限定の新商品として寒冷地のお客様に喜んでいただいています。柔軟に意見を取り入れることのできる強みが発揮された事例です。



## 日々の業務から変えていく「改鮮活動」

### 改鮮隊の想い

改鮮活動では「出てきた意見は全部試す」を基本スタンスとしています。小さなところから「自分の意見が採用されて、問題が改善された」という成功体験を積み重ねていくことで、業務に対するモチベーションが少しずつ底上げされます。「誰かがやるだろう」という考えを取り払い、「自分が進んでやる」という気持ちを芽吹かせること、それが、自立の心を育む第一歩です。

「改鮮隊」の詳細については、P.23も併せてご覧ください。



上野工場長兼  
改鮮隊隊長  
田中 祐之

現場から出てくる  
気づき提案数

月 **864** 件

2018年度

## ロートの「変化」と「挑戦」

### ロート × 再生医療



### 前例のない新しい医療への挑戦

病気の治療だけでなく将来的な予防医療にもつながると考え、2013年に再生医療研究企画部を設立。新しい医療への挑戦はすでに始まっています。

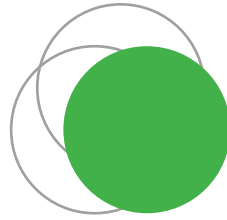
### ロート × 食



### 毎日の食から健康を追求

本当の健康とは薬が必要でなくなること。「食」は病気やストレスに負けない身体を作る源です。「薬」よりもさらに深く「健康」を追求します。

[ ロートらしい企業文化 ]



# 個の多様性が 生きる

## 現地に根付いて世界に向き合う

当社は欧米やアジア、アフリカなど、世界110以上の国・地域にネットワークを構築しています。国や地域によってニーズや規制が異なることから、一つひとつの国・地域に寄り添って、現地に根付きながら、必要とされる商品を提供しています。その橋渡し役として活躍するのが、日本にいる外国籍の研究者です。長年日本で培った技術をその国・地域に応用しながら、世界に貢献しています。国内でも、女性社員やキャリア人材などが多様な個性を発揮し、活躍することで、常に変化を捉えています。



## グローバル人材が有機的につながり、 未来に貢献する

ロートグループが世界の人々のニーズにお応えするためには、さまざまな国・地域の研究員が、それぞれのバックボーンを活かして建設的に議論し、研究開発を推進する必要があります。

当社では、積極的に外国籍の研究員を採用し、現在は全研究員(デスクワーク中心の社員を除く)の約15%が外国籍社員です。

外国籍研究者率

約 **15%**

(11カ国)

2018年12月現在

### 外国籍研究者からのコメント

私はさまざまな部門とコミュニケーションを取ることを大切にしています。現地のメンバーに知識や技術を伝えることにより、海外でのタイムリーな商品開発や基礎研究力の向上に貢献しています。



基礎研究開発部  
**センディ·ジュネディ**  
(インドネシア出身)

## 女性も男性もイキイキと働ける環境づくり

当社では女性社員が約6割を占めていますが、性別関係なく、イキイキと働ける環境づくりを大切にしているのは、今に始まったことではありません。人々の健康を考える上で、さまざまな意見を吸収できるようにしています。

男女比率

**4:6**

2019年3月現在

### 性別関係なく力を発揮する環境



取締役  
プロダクトマーケティング部  
部長

**カ石 正子**

当社では、イキイキ働いている女性は数多くいますが、世間一般に言われている女性活躍推進のために特別な制度を作ったからというわけではなく、むしろ性別関係なく持っている力を発揮できることが当たり前だと考えているからだと思っています。そのため、以前から積極的に女性を採用し続けていること、またイキイキと働く先輩の背中を見る機会が増えてきた結果、現在はさまざまな分野で女性が活躍しています。

## 混ざり合って進化する

これまでにない新しい商品を作り出すには、多様な個性が混ざり合うことが大切と当社は考えます。企業文化を深く理解するプロパー社員、新しい視点を持つキャリア社員がそれぞれの経験を活かし、融合することで、当社は常に進化しています。さらに、その分野を詳しく知らない新しい視点での発想と、その道の経験を積み重ねた知見の融合を図ることで、イノベーションを生み出しています。

プロパー社員対  
キャリア社員比率

**44:56**

2019年3月現在

プロパー  
社員

混ざり合って、  
お互いが進化

キャリア  
社員



ロートの健康経営

ロート製薬

## 健康経営宣言

わたしたちは、いつまでも健康で  
毎日を生き活きと働くことのできる

「健康人財」であふれる会社になることを目指しています

社員の健康から社会の健康へ、  
そして次世代へと健康の輪を広げていくために、  
さらに健康経営に取り組むことを宣言します

2018年に、「ロートで働く和健康になる」ことを目指し、  
健康経営宣言を制定するとともに、2020年に向けた健康  
目標を設定しました。







取締役副社長 兼  
チーフヘルスオフィサー（最高健康責任者）  
ジュネジャ・レカ・ラジュ

## CHO MESSAGE

当社の健康経営は全ての社員が主役であり、社員一人ひとりの健康が社会を健康にすることと深く結びついています。

人が放つポジティブなエネルギーが周囲に伝播していくのと同じように、当社の社員自身が健康であれば必ず周りにも広がっていき、家族や友人、社会そして世界へと健康の輪が広がっていくのです。

だからこそ、まず自分たちの健康を何よりも大切にしたいと願っています。一緒に健康になることを楽しみましょう。

### チーフヘルスオフィサー(CHO)について

社員のみならずお客様そして社会全体の健康に貢献することが、会社の存在価値であり、それに対する事業展開をさらに強化するために、他社に先駆け2014年より設置。

ヘルスケア全般に関する社会貢献活動、国内外の関連事業、研究開発をさらに加速するために、CHOを中心に、健康を上位概念に置いた経営方針を明確にし、当社は社員だけでなく社会全体の健康を支える企業に進化していきます。

## 「スポーツエールオフィサー(SYO)」\*に 長友佑都氏が就任

### 長友選手からのコメント

これまで私が経験してきたことや学んできたこと、そして「スポーツの持つ力」を活かして、ロート製薬のみなさんの健康づくりを支えるとともに、より多くのアスリートが今後働く人の健康づくりに役立っていく、そのきっかけとなれば幸いです。

\* スポーツエールオフィサー(SYO)は当社従業員の健康増進を目的として、運動習慣の定着・向上につながる取り組みを推進する役職です。



撮影：中島慶子(マガジンハウス)

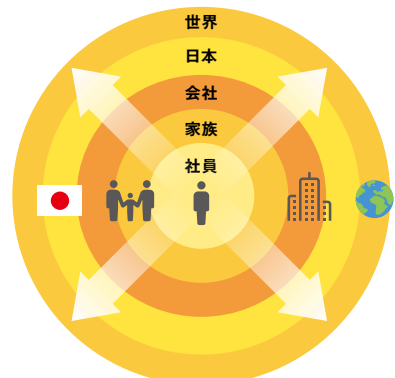
スュベル・リーグ・ガラタサライ所属  
プロサッカー選手

長友 佑都

## 社員の健康から「社会の健康へ」

当社が考える健康とは、単に病気でない、ということだけではありません。心身の健康を基盤として、情熱(働きがい・生きがい)をもって日々の仕事に取り組み、成長できてこそ「真の健康」であり、そういった社員が世の中の健康を支えていく「健康人財」であると考えています。

健康人財としての社員一人ひとりが、イキイキと働くことが何よりも大切です。そのポジティブなエネルギーは周囲の友人や家族へ、そして商品やサービスを通じてお客様へ届くと考えています。



1人のポジティブなエネルギーが世界へと

# Topics

## 「健康的な生活習慣を楽しむ仕掛け」づくりを 公募プロジェクト(ARKプロジェクト\*)から「健康経営推進グループ」設立へ

当社の健康経営の推進は、CHOのリーダーシップのみならず、若手中心のプロジェクトからボトムアップで数多くの提案があり、2016年に「健康経営推進グループ」という部署が設立されるまでになりました。健康的な活動が、さらなる健康を生む独自の健康社内通貨を導入し、社員の運動の習慣化・卒煙推進・女性の健康づくりなど、社員が健康活動を楽しめる仕組みを随時作っています。

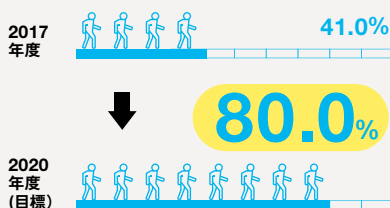
\*「ARKプロジェクト」の詳細については、P.33をご覧ください。

### 健康社内通貨「ARUCO(アルコ)」

社員の健康増進を目的に、2016年、全社員に活動量計を貸与。毎日8,000歩と早歩き20分を推進する取り組みをスタートしました。また、2019年1月から、健康社内通貨「ARUCO」を導入。健康をコンセプトに、毎日の歩数や早歩き時間、スポーツの実施や非喫煙など、健康的な生活習慣の実施状況に応じてコイン(社内通貨)が貯まり、獲得したコインは、心身の健康づくりにつながる幅広い用途で利用できます。生活習慣の見直し・改善が図れていない社員が健康について考える「きっかけ」なることを期待し、健康を「意識する」だけでなく、日々の行動に「変化」を取り入れることが重要だと考えています。



#### 1日8,000歩および早歩き20分の実践率



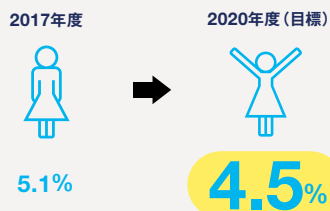
### 「女性の健康づくり」先端企業へ

当社では約6割が女性社員であり、さまざまなライフステージに合わせて女性社員がイキイキ働けるよう幅広いサポートを行っています。女性社員の健康づくり、働きやすい会社づくりに努めています。

- ・乳がん検診・子宮頸がん検診の無料化
- ・血清フェリチン\*1検査の無料化
- ・風疹麻疹抗体検査、MRワクチン接種の無料化

\*1 フェリチンとは、体内の鉄貯蔵量を反映するタンパク質で、鉄分不足の重要な指標

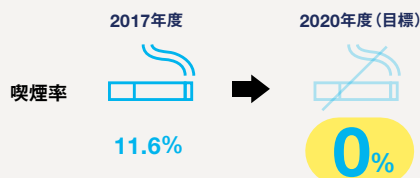
\*2 血色素量(Hb) 10.9g/dl未満



女性の貧血率\*2

## 自主性を大切にした卒煙推進

当社では2020年までに社員の喫煙率0%の達成を目指しています。周りのメンバーが卒煙を応援する卒煙ダービーに参加したり、個人面談を通して自ら卒煙目標を立てるなど、あくまで「自主性」を大切にしながら卒煙を促進しています。



## 進化を続ける「朝の体操」と健康ドリル

1970年代から続けている朝の体操。健康意識を高め習慣化する一方で社員がオリジナル体操を考案し、楽しく効果のある体操を生み出し続けています。また、健康リテラシーの向上のため体操とともに健康にまつわるクイズを毎朝実施しています。

体操の種類

約 **30** 種類



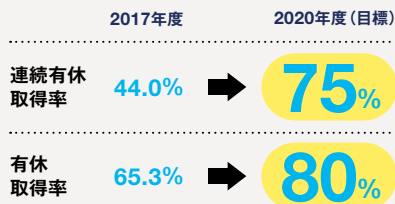
## 楽しみながらスポーツを推進

1980年代から続く社員参加の運動会や全国卓球大会など、社員による企画で実施されています。社内交流の活性化、若手の企画力の向上にもつながっています。また、2002年より体力測定を継続的に実施。体力年齢をランキングし、体力を見直すきっかけを提供しています。



## プラスワン休暇制度

当社は、心身のリフレッシュや自己研鑽などに活用する時間を持つことが重要と考えており、計画的な連続有給休暇取得を推奨するため、プラスワン休暇制度(4日以上連続有給休暇取得に対して、特別休暇を1日付与)を設け、従業員の主体的な働き方・休み方改革に取り組んでいます。



## 健康経営における実績

- 2015年 第1回「健康経営銘柄」に選出
- 2017~2019年 「健康経営優良法人(ホワイト500)」に選出
- 2017~2018年 スポーツ庁より、「スポーツエルカンパニー」に認定



# ESH推進を支えるコーポレートガバナンス

## コーポレートガバナンスの基本的な考え方

当社は企業の社会的責任を果たすとともに、株主、消費者、取引先、従業員などの全てのステークホルダーの信頼と期待に応え、共存共栄を図ることを目指し、経営の透明性・公正性を確保するとともに、経営環境の変化に迅速かつ確に対応するため、経営上の組織体制を整備し、必要な施策を実施しています。

また、当社のコーポレートアイデンティティ、経営理念に基づいて、ロートCSR憲章およびロートCSR行動指針を制定し、法令遵守を推進しています。

当社のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方、運営方針などについては、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」をご覧ください。  
🌐 <https://www.rohto.co.jp/ir/strategy/governance/policy/>

## コーポレートガバナンスの変遷

**2005年** ・ロートCSR憲章を制定

**2012年** ・社外取締役(1名)を招聘

**2014年** ・外国籍副社長を「チーフヘルスオフィサー  
(CHO=最高健康責任者)」に任命  
・社外取締役に女性を初めて登用

**2016年** ・コーポレートアイデンティティ  
「NEVER SAY NEVER」を制定  
・「報酬・指名等諮問委員会」を設置

**2019年** ・社外取締役を2名から3名に増員  
・「指名委員会」および「報酬委員会」を設置  
・内部統制システムを改定

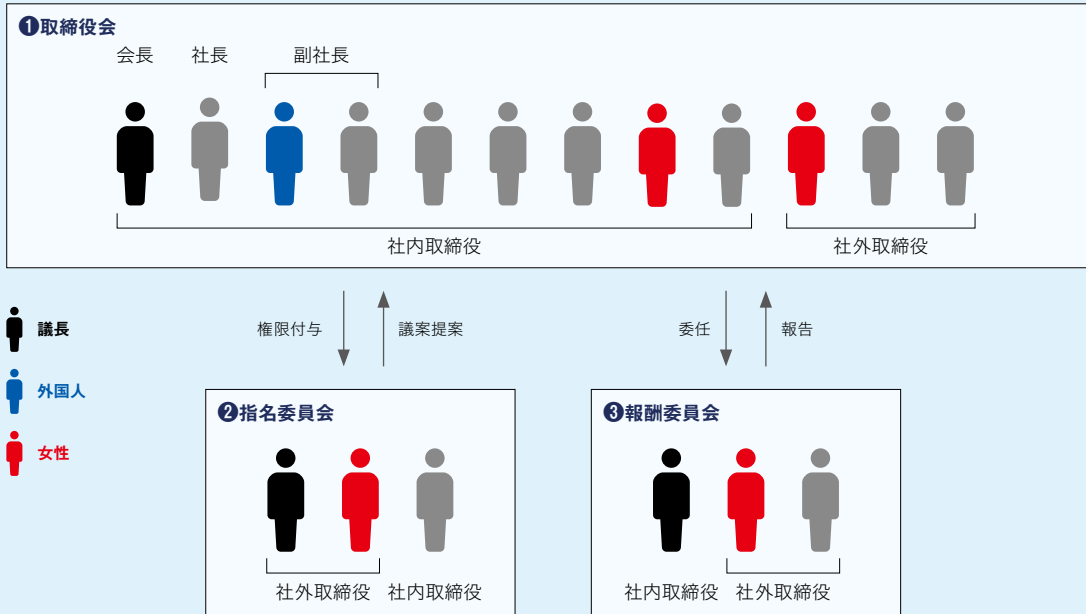
### 現在のガバナンス体制一覧(2019年3月期)

主な項目	内容
形態	監査役会設置会社
取締役の人数 (うち社外取締役)	12名 (3名)
独立役員の数	5名
取締役の任期	1年
取締役会の諮問機関	指名委員会、 報酬委員会
監査法人	EY新日本有限責任 監査法人

## 取締役会の実効性評価

2019年3月期も全取締役を対象とした自己評価(アンケート形式)を実施した結果、2018年3月期に引き続き、全体的には概ね良好な評価を得た一方で、個々の取締役に適合した研鑽・トレーニングの機会提供に関する意見が出されました。今後は、適切な研修の機会提供に努めていきます。

## 多様性を反映したロートのガバナンス体制



### ①取締役会

取締役会は、株主に対する受託者責任と説明責任を踏まえ、当社グループや株主をはじめとするあらゆるステークホルダーの共同の利益のため、当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。

### ②指名委員会

指名委員会は、取締役会より権限を付与された取締役選任・解任議案、代表取締役の選定・解職議案等の原案の策定と取締役会への提案を行います。

### ③報酬委員会

報酬委員会は、取締役会の委任を受けて、個別報酬額の策定等を行います。また、取締役報酬方針・制度・体系に関する原案の策定および取締役報酬に関して株主総会の承認を必要とする議案の原案の策定と取締役会への提案を行います。

## 腐敗防止に対する取り組み

当社は真の意味での健康的で発展的な社会の実現を目指しています。そのため、贈収賄を含む全ての汚職・腐敗を否定し、防止に取り組んでいます。

贈収賄などの金銭的なものだけでなく、非金銭的な便宜も含む全ての腐敗を防止するために、当社では内部通報制度(ロートホットライン)を完備しています。海外を含む子会社・グループ会社で内部通報が発生した場合は、速やかに内部監査室が情報収集を行うことで、グループ全体のリスクをマネジメントしています。

これらの方針および制度についてはロートCSR行動指針に記載され、全従業員が共有しています。

詳細は、下記URLをご覧ください。

🌐 <https://www.rohto.co.jp/csr/charter/>

## OUTSIDE DIRECTOR MESSAGE



社外取締役  
早稲田大学ビジネススクール 教授  
**入山 章栄**

さまざまな目を持つステークホルダーの  
便益に配慮しながら、  
社会の長期的課題に取り組む  
ロート製薬をサポートしていきます。

2019年にロート製薬の社外取締役への就任を決めたのは、明確な理由があります。まだ米国にいた10年ほど前、私はひょんなことからロート製薬の社員と知り合い、やがてロート製薬がさまざまな健康・社会・環境などの長期的な課題に真剣に取り組んでいること、東日本大震災の時に率先して「みちのく未来基金」を作って震災遺児の援助を行い、さまざまな復興支援に本気で関わってきたこと、日本の大手企業で最初に「兼業」を解禁したこと等々に注目し、共感してきたからです。

現在、SDGsやCSRなど、企業が社会の長期的な課題に取り組むことが注目されています。他方で、一般の日本企業がそれに本気で取り組んでいるかという心もとないものがある、とも個人的には思っています。しかし、たとえば気候変動などは、完全に「待たなし」の地球の課題です。2019年10月には季節外れの台風19号が日本を襲いましたが、これも気候変動の影響と考えたほうが良さそうで、ようやく日本でも問題の深刻さが認知されてきたようです。

これに限らず、現在の人類は、食料問題や貧困、健康、衛生など、さまざまな課題を抱えています。

これらを放置すれば、私たちの子どもや孫の世代にツケを残すだけであり、やがて私たちの子孫の経済的繁栄も奪っていくでしょう。そうすれば、企業はビジネスもできなくなります。

その意味でも、社会問題に取り組む民間企業の先駆けとなっているロート製薬が、さらにその動きを加速させ、健康・社会・環境の問題に取り組みながら、企業として成長していくことが望まれます。私も社外取締役として、企業のガバナンスや株主、従業員、取引先など、さまざまな目を持つステークホルダーの便益に配慮しながら、社会の長期的課題に取り組むロート製薬をサポートしたいと考えています。

### 略歴

慶應義塾大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科修士課程修了。株式会社三菱総合研究所で主に自動車メーカーや国内外政府機関へのコンサルティング業務に従事した後、2008年に米国ピッツバーグ大学経営大学院でPh.D.を取得。同年より米国ニューヨーク州立大学バッファロー校ビジネススクール助教授。2013年より早稲田大学ビジネススクール准教授、2019年4月より現職。専門は経営戦略論、国際経営論。2012年に出版された著書『世界の経営者はいま何を考えているのか』（英治出版）はベストセラーとなり、現在は『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』誌上にて長期連載「世界標準の経営理論」を掲載するなど、各種メディアでも積極的に活動している。

# ESH推進を可能にする財務基盤

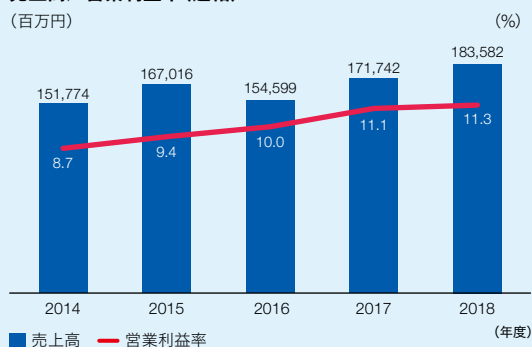
## 財務の基本的な考え方

ロート製薬では、営業利益率は現行水準である10%を維持しながらも、長期視点で社会課題に取り組んでいます。売上高を伸ばし、利益額を上げながら未来に向けた再投資を行い、同時にステークホルダーの皆様への適切なシェアができるように努めていきます。

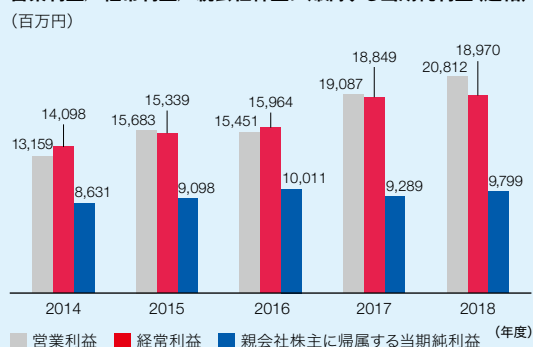
## 成長性

トップラインが順調に伸びており、営業利益率が一定比率を維持しています。

売上高／営業利益率（連結）



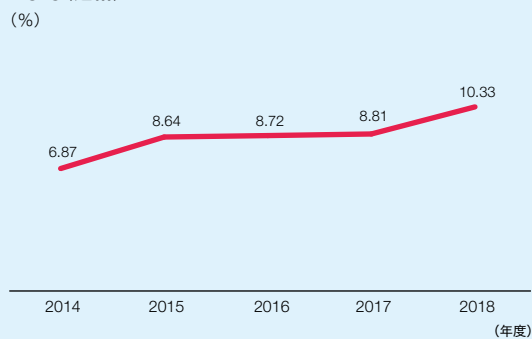
営業利益／経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益（連結）



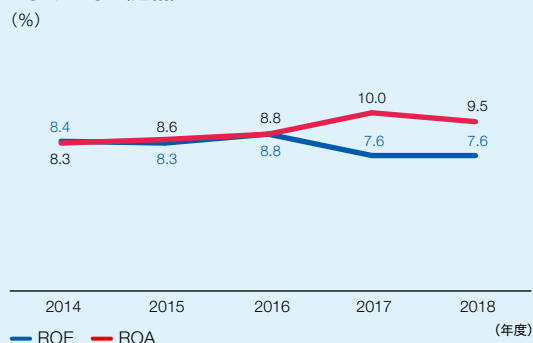
## 収益性

資本コストを上回るリターンを持続的に創出しています。

ROIC（連結）



ROE／ROA（連結）

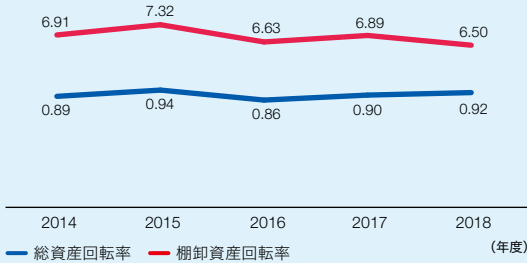


## 効率性

棚卸資産を順調に減少させることで、資産を効率的に売上に結び付けています。

### 総資産回転率／棚卸資産回転率(連結)

(回)

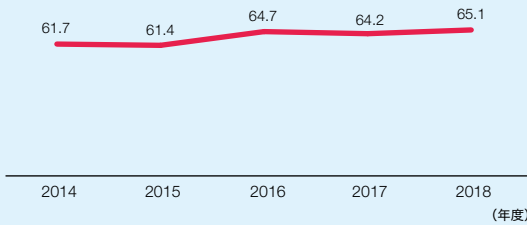


## 安全性

未来への投資は進めながらも、安定して高い営業キャッシュ・フローを実現。フリー・キャッシュ・フローはプラスになる且つ適切な範囲で、新規投資を続けています。

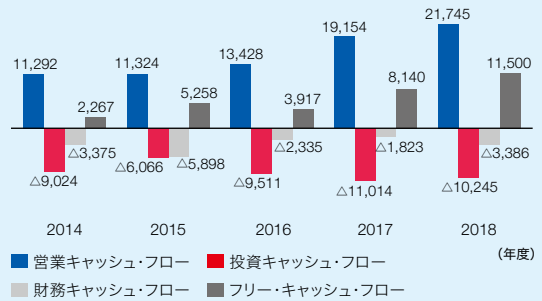
### 自己資本比率(連結)

(%)



### キャッシュ・フロー(連結)

(百万円)



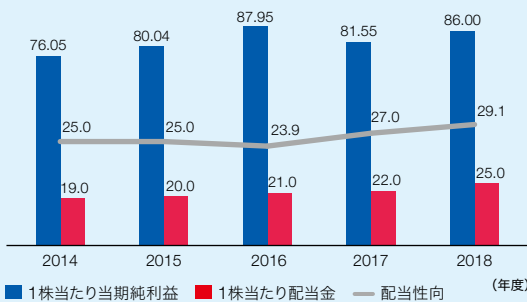
## 株主還元

ステークホルダーである株主へ適切にシェア。また、内部留保を未来への再投資に用いて、成長を目指します。

### 1株当たり当期純利益／1株当たり配当金／配当性向(連結)

(円)

(%)



### 1株当たり純資産／株価純資産倍率(連結)

(円)

(倍)





# ロートのプロフィット・シェア・ポリシー

ロート製薬は2019年に定款を変更し、「社会の公器」としての使命を持ち、  
長期的視点で、取り巻く全ての人たちと協働して社会課題を解決し、  
これにより得られた便益を共有すると改めて宣言しました。  
健全な事業によって生まれた利益は、当社が目指す理想の健康・健全な社会を  
実現すべく再投資していく一方で、同じく長期的視点で当社をご支援いただく  
ステークホルダーの皆様には適切に配分、還元していきます。

## ロートを支えるステークホルダー

### 取引先 (仕入れ先・販売先)

売上を着実に拡大することによって、  
取引先に対する支払いを増やすだけで  
なく、取引先の雇用を生み出す原動力  
とする。

### ロート社員・家族

売上、利益の着実な増加と、社員の働き  
に応じて、給与や福利厚生、教育・研修など  
を通じて適切に還元していく。健康経営の  
推進により、社員やその家族の心身の  
健康づくりを支援する。

### 国・地域社会

事業活動によって得られた利益を税として  
納めることで社会貢献を果たす。  
また、地域の人々への貢献を目指す。

### 株主・投資家

長期視点に立ち、社会に真に貢献できる  
企業となることで企業価値の増大に努め、  
「配当性向25%」を基準とした配当を  
実現する。

### 生活者・未来世代

商品やサービスを適正な価格で提供する  
ことで、心身の健康づくりに貢献する。また、  
健康増進につながる知識の普及や啓発  
活動を通じて、人々の美や健康に  
貢献する。

# データ集

(年度)

ESH関連指標(単体)	2014	2015	2016	2017	2018
<b>「健康(Health)」に対する価値 ⇒P.16-23</b>					
研究開発費(連結)(百万円)	5,585	5,811	6,123	6,553	<b>6,831</b>
よるこビックリの声*1(件)	1,338	1,405	1,669	1,293	<b>1,191</b>
改鮮活動件数(件)	13,590	11,292	11,758	10,637	<b>10,367</b>
<b>「社会(Social)」に対する価値 ⇒P.24-27</b>					
みちのく未来基金 寄付社員数(人)	840	871	854	866	<b>858</b>
かるがも基金 寄付社員数(人)	982	969	934	945	<b>929</b>
<b>「環境(Environment)」に対する価値 ⇒P.28-29</b>					
原油換算量推移(kℓ)	8,167	8,319	8,160	8,175	<b>8,015</b>
GHG総排出量(t/年)	16,370	16,559	15,846	15,772	<b>14,669</b>
売上原単位(t/百万円)	199	186	177	163	<b>141</b>
電気消費量(千kWh/年)	23,989	24,428	23,994	23,711	<b>24,289</b>
売上原単位(千kWh/百万円)	292	274	268	245	<b>233</b>
都市ガス消費量(千m <sup>3</sup> /年)	2,329	2,383	2,395	2,410	<b>2,087</b>
売上原単位(千m <sup>3</sup> /百万円)	28	27	27	25	<b>20</b>
水使用量(千m <sup>3</sup> /年)	305	292	275	290	<b>266</b>
売上原単位(千m <sup>3</sup> /百万円)	3.7	3.3	3.1	3.0	<b>2.5</b>

「ロートらしい企業文化」関連指標(単体) ⇒P.30-37					
公募プロジェクト応募数*2(人)	77	-	-	-	<b>51</b>
ダブルジョブ(人)	-	-	36	49	<b>70</b>
チャレンジワーク(人)	-	-	25	63	<b>84</b>
離職率*3(%)	4.0	4.2	4.6	5.4	<b>5.3</b>
年次有給休暇取得率(%)	64.6	63.4	62.2	65.3	<b>70.1</b>
女性管理職者率(%)	20.2	19.1	18.6	19.2	<b>21.1</b>
障がい者雇用率(%)	1.68	1.87	1.90	1.84	<b>2.08</b>
育児休暇取得者数*4(人)	63	61	64	105	<b>100</b>
社員数(人)	1,516	1,524	1,562	1,400	<b>1,474</b>
女性(人)	909	907	918	805	<b>857</b>
男性(人)	607	617	644	595	<b>617</b>

「ロートの健康経営」関連指標(単体) ⇒P.38-41					
1日8,000歩および早歩き20分の実践率(%)	-	-	28.2	41.0	<b>44.4</b>
肥満率(男性)(%)	20.7	22.4	21.9	24.0	<b>22.5</b>
肥満率(女性)(%)	13.2	9.9	13.7	15.3	<b>15.2</b>
喫煙率(%)	12.1	13.5	12.5	11.6	<b>7.7</b>
女性貧血率(%)	3.9	5.1	7.3	5.1	<b>4.9</b>

「ESH推進を可能にする財務基盤」関連指標(連結) ⇒P.45-46					
売上高(百万円)	151,774	167,016	154,599	171,742	<b>183,582</b>
営業利益(百万円)	13,159	15,683	15,451	19,087	<b>20,812</b>
経常利益(百万円)	14,098	15,339	15,964	18,849	<b>18,970</b>
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	8,631	9,098	10,011	9,289	<b>9,799</b>
ROA: 総資産経常利益率(%)	8.3	8.6	8.8	10.0	<b>9.5</b>
ROE: 自己資本当期純利益率(%)	8.4	8.3	8.8	7.6	<b>7.6</b>
自己資本比率(%)	61.7	61.4	64.7	64.2	<b>65.1</b>

\*1 お客様から寄せられた感謝のお便りなど好意的なレスポンス

\*2 社内公募プロジェクト参加者数(2014年度はARKプロジェクト、2018年度はあすつくプロジェクト)

\*3 定年退職者・パートタイム従事者を除く

\*4 育児休暇取得者は、年度がまたがる人を含め、ほぼ復職率100%で推移

## コーポレートデータ (2019年3月31日現在)

### 会社概要

社名	ロート製薬株式会社 ROHTO Pharmaceutical Co., Ltd.
創業	1899年(明治32年)2月22日
設立	1949年(昭和24年)9月15日
資本金	6,446百万円
従業員数	<連結>6,355名 <単体>1,474名

### 株式情報

証券コード	4527
発行可能株式総数	399,396,000株
発行済株式の総数	113,971,083株 (自己株式4,018,825株を除く)
株主数	16,657名
事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 (市場第一部)

### Webサイトのご案内

事業紹介やIR情報、ESG/CSRなどの詳細情報については、当社Webサイトをご覧ください。

 <https://www.rohto.co.jp/>



### 役員一覧 (2019年6月27日現在)

#### 取締役

代表取締役会長 山田 邦雄

代表取締役社長 杉本 雅史

#### 取締役副社長

#### 海外事業・技術担当

#### 兼 チーフヘルスオフィサー

(最高健康責任者) ジュネジャ・レカ・ラジュ

取締役副社長 斉藤 雅也

取締役 國崎 伸一

取締役 山田 哲正

取締役 上村 秀人

取締役 力石 正子

取締役 瀬木 英俊

社外取締役 松永 真理

社外取締役 鳥井 信吾

社外取締役 入山 章栄

#### 監査役

常勤監査役 木村 雅則

常勤監査役 榎本 健

監査役 藤巻 光雄

監査役 天野 勝介

### お問い合わせ先

ロート製薬株式会社

広報・CSV推進部 ESH推進グループ

NEVER SAY NEVER  
**ROHTO**

